

## 27 ファッション——トレンドに敏感になる。まとめとピックアップ

////////////////////// らくしゅみっくす  
人気が高いコンテンツの1つが「ファッション」。ファッション記事には種類や書き方、ちょっとした小技があります。覚えておくとさまざまなメディアでの執筆で役立ちます。

### 人気が高いコンテンツ「ファッション」

人気が高いコンテンツには、旅行やグルメ、日常で使える節約方法や恋愛などがあります。「ファッション」もそのひとつです。

日本のファッションは四季に合わせていろいろなコーディネートが存在しますし、服の種類もたくさんあります。さらに、年代別で着るテイストやアイテムが異なるため、各種いろいろな情報が求められます。だから「ファッション」は途切れることなく人気が高いコンテンツなのです。

さらに、ファッションアイテムには、「今年の流行色やアイテム」などトレンドが必ず含まれています。それだけでなく「コーディネートや去年のアイテムとの組み合わせ方」や「オシャレな人だからこそ知っているファッション豆知識」など、読み手が知りたいと思う情報はたくさんあります。それに、Webメディアの記事はスマホやPCから「いつでもどこでも確認出来る」ので非常に人気です。

こういった理由から「ファッション」コンテンツは非常に人気が高く、Webライターを募集しているところも多いのです。つまり「ファッション」のライティングが得意になると、さまざまなWeb

メディアでの執筆が可能となるのです。

### コンテンツで見られる記事の種類

記事の種類には「まとめ」記事や「ピックアップ」記事などがあります。

「まとめ」記事はファッションや美容などトレンドやジャンルが幅広いコンテンツによく見られます。いくつかのアイテムやパターンを、要点を絞った形で5個から10個ほどまとめて紹介していくものです。

例えば、今期のトレンドカラーや流行っているスタイルなどをいくつかまとめていく、という感じですね。

「ピックアップ」記事とは、何かひとつにテーマを絞り、その使い方や種類などを詳しく解説していくものです。

例えば、デニムシャツやGジャンに合わせたコーディネートや「今年トレンドのサンダルに合うスタイルを紹介する」など。まとめと違って、詳細に掘り下げて解説したり提案したりといった書き方になるので、しっかりとしたリサーチや知識、体験などが求められます。

### 「まとめ」記事の書き方

まずはテーマをひとつ決めます。「シューズ」まとめや「春先に使えるカラー」まとめ、「気温別のコーディネート」まとめなど、

28

## ビジネス——経験や培ってきた知識やデータを駆使する

//////////////////// 八湊真央

さまざまなテーマの中から「ビジネス」を取り上げて原稿を書く場合、どうすればよいでしょうか？ ビジネス記事には陥りがちな注意点があります。それを意識するかしないかで、原稿全体の読みやすさが大幅に変わります。

### 信憑性のある原稿を書くために

ビジネス記事を書く場合、おそらく大半はビジネスに対して以前から興味がある、もしくは経験があるから、ビジネスというテーマを選ぶのではないのでしょうか。ビジネスは分野ごとに専門用語もあるし、特殊な業界については、そこで働いたことのある人でないと中々理解できない、もしくは知りえない情報もあります。

もちろん、仕事で原稿を書くことを請け負う以上は、経験者でなくても原稿を書かなければいけないこともあります。その場合は、テーマの内容に対して徹底的な事前調査が必要になります。

ただし、その事前調査は、インターネットで業界用語を簡単に検索して適当に書く、というレベルではいけません。

また、経験があるからといって、調査をおろそかにするのもよくありません。あなたが経験した時よりも、状況は変わっているかもしれません。法律も改正されるものもあります。その経験があるからこそ、調査はより念入りに行うこともできるし、また正しい情報を引き出すこともできるはずです。

いずれにせよ、「記事の内容の信憑性」というのは原稿を書くうえで非常に重要です。経験があろうがなかろうが、必ず事前調査は念入りに行うようにしましょう。

### 専門用語の多用に注意する

ビジネスをテーマに選んだときに陥りがちなのが、「その業界の専門用語を多用する」ケースです。

もちろん、その用語を使わなければ原稿を書くのが難しいのはわかります。ですが、原稿ができ上がったときに、一度その原稿を「客観的に」読み直してみてください。あなたの書いた原稿、果たして内容を理解することができますか？

記事を読むターゲットが「その業界の専門家」である場合は、専門用語を使って原稿を書いてもある程度問題ないかもしれませんが、多くの場合はそうではなく、「少し詳しい一般人」もしくは「ちょっと興味があるけれど、それほど詳しくない一般人」が読む場合が多いのです。興味がない人も、もしかしたら目にしてくれるかもしれませんが、そんな人達が「まったく意味が理解できない難しい内容の記事」を、全部読んでくれるでしょうか？

難しい言葉を、難しいまま書くことは簡単です。ですが、難しい言葉を、それがわからない人に対してわかるように書くことは、決して簡単ではありません。

つまり、調べた内容をただ単に原稿に書いて行くだけではだめだということなのです。元の内容が難しければ難しいほど、専門性が高ければ高いほど、それが重要になってきます。